



あびこ市民活動 ネットワーク 会報

令和 5(2023)年 1月 15日発行

第 64 号

発行責任者 関口隆彦
我孫子市湖北台 2-6-18



新年のごあいさつ



あびこ市民活動ネットワーク 代表 関口 隆彦



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、心新たに新春をお迎えのことお慶び申し上げます。また、日頃よりあびこ市民活動ネットワークにご協力いただきありがとうございます。

昨年から引き続き新型コロナウイルスの感染は収まらず、気の抜けない日々が続いております。ICTの活用が浸透してきましたが、一度希薄化した「人とのつながり」が戻るには時間がかかりそうです。新型コロナだけではなく、去年はウクライナ戦争が勃発し、さらなる混乱が世界に広がりました。エネルギーや日用品の物価上昇もあり、世の中不

安定な状況となっております。世界が平和に安定していくことを願うばかりです。

コロナ禍以降、地域の催しごとの減少、地域の高齢化や生活困窮課題、子ども若者の虐待や孤立など、様々な社会課題の増加が加速しているように思えます。制度では支えきれない課題を、どのように地域でささえ合えるのかが重要だと私は考えています。日々変化する地域や世の中の変化に合わせて、あびこ市民活動ネットワークもどのようにアクションを起こすべきなのか、定例会で検討を重ねているところです。皆様のお力とお知恵をいただけますと幸いです。

今年が皆様にとって幸せ多い年になりますように。



新年明けましておめでとうございます



我孫子市長 星野 順一郎



新年おめでとうございます。

ネットワーク会員の皆様には、日頃より市政にお寄せいただきありがとうございますご支援とご協力に対し、心から感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響は未だ続いておりますが、市民活動団体の工夫された取り組みによって、多くのイベントが再開され始め、まちにも賑わいが戻りつつあり、我孫子市にも明るい兆しが見えてきたところです。

さて、コロナ禍による社会変化がある中、市民の暮らしを明るく支えていくためには、市民活動団体の活動がますます重要性を増していると感じております。

今後も活発な活動が展開されることを期待しています。

また、市といたしましても、必要な感染対策を講じながら活発な市民活動を推進していくことが必要であると考えており、市民活動団体の他、あびこ市民活動ステーション、自治会、まちづくり協議会、企業等と力を合わせ、市民とともに作る協働によるまちづくりを推進していきますので、どうかご協力いただきますようお願い申し上げます。

結びに、あびこ市民活動ネットワーク並びに会員の皆様の更なるご発展と、ご健勝を心からお祈りしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

< も く じ >

- 1P あびこ市民活動ネットワーク代表挨拶／市長挨拶
- 2P 活動報告①市民活動支援指針グループ／②地域共生社会グループ
- 3P 開催予告③子ども応援団事業グループ／審議会報告
- 4P 会員の活動あれこれ：NPO 法人ハートネットあびこ
- 5P 地域の活動あれこれ：つくし野睦会インタビュー

- 6P 地域活動あれこれ：NPO 法人チャリティーサンタ我孫子支部
- 7P ACNW 役員会報告／事務局から／ホームページ活用のお願い
- 8P みんなの掲示版：ふれあい塾あびこ／我孫子の文化を守る会／我孫子の景観を育てる会／あびこ市民活動ステーションから

① 市民活動支援指針グループ



令和6年度公募補助金のあり方について 意見交換会の報告

公募補助金（地域のまちづくりを推進し、市民が行う自由な市民公益活動や生涯学習活動を行う団体の運営や事業を支援するための補助金）のあり方について、市民協働推進課と11月14日に意見交換をしました。当日はあびこ市民活動ネットワーク役員10名、会員2名、小池課長・飯塚課長補佐が参加。

小池課長から公募補助金の内容変更を検討する理由として、応募する団体が減少および固定化してお



り、「我孫子市の市民活動やまちづくりの波を、もうひと波起こす」という目的があるとお話がありました。もうひと波起こすためには①行政としてどういった資金支援の在り方がこれから必要であるのか。②新たな団体を後押しできるどのような制度が必要なのか、という点などについて意見交換を行いました。一方で、補助金についてではなく、申請書類の簡素化や、公募補助金を現在受けている団体の相談や支援体制についてのサポートも、今より必要ではないかという意見がありました。

我孫子市の市民活動に「もうひと波」起こすためには、資金的な支援のみならず市役所の職員が市民活動をより深く理解し、連携する体制が必要です。公募補助金のより良い活用に向けて、あびこ市民活動ネットワークは今後も我孫子市との意見交換を続けていきますので、皆様のご参加をお待ちしています。

（担当幹事 関口隆彦）

② 地域共生社会グループ

クリーンセンターとの情報交換会を開催

2022年11月7日(月)に市民活動ステーション大会議室にて、剪定やゴミ屋敷の片づけなどの事業を実施している市民団体とクリーンセンター担当者との情報交換会を実施しました。2021年1月に「高齢者の“手”助けサミット」を開催。その際に課題として出されたゴミ処分の問題について、少し時間が経過しましたが、前向きに取り組みたいと思い開催した会合です。参加団体はNPO法人わごころ「みんなの輪」、ACOBAメルシー&メルシー、NPO法人アシラネ、任意団体お助けマンの方々です。

ゴミ搬入に際しての現状を皆様からお話いただき、課題として

- ・許可書がある者についてはマニュアルを作って対応してほしい。
- ・広報などに市民団体のゴミ搬入について記載し、明示してほしい。

- ・料金設定について熟慮し、住民税非課税世帯などへの配慮がほしい。
 - ・市民団体の存在価値を高める配慮がほしい。
- などの声が上がりました。

予約制が導入されるのは、新施設が可動する3月までの期間です。その期間の暫定措置についてはクリーンセンターから前向きな回答をいただけませんでした。新施設可動後は落ち葉や雑草が可燃ごみとなりますが、枝木の搬入など課題も多く残り、低料金で事業を請け負っている団体が少しでも活動しやすくなるようにと願います。

（担当幹事 小田麻子）



開催予告！ ③ 子ども応援団事業グループ



「引きこもり支援のこれからを考える会」を開催

12月6日(火)に2022年度第6回子ども応援団事業実行委員会がありました。

この事業は、2016年から「あびこのこれからフォーラム」において、市と協働で子どもの貧困や不登校の課題を考えてきたもので、2018年度からは市民活動ステーションと協働で、実行委員会方式で取り組んできました。

そして生きづらさを抱えた子どもや若者たちの支援を目的に、当事者からの発信、当事者を支える活動や支援機関のつながりづくりを目的として、5年間で計6回のシンポジウム「生きづらさからの大脱出」を開催してきました。基調講演では、シンガーソングライターの悠々ホルンさん、我孫子市教育相談センター所長遠藤美香さん、ゆるみ☆子育て代表

堀内祐子さん、NPO法人CASE Japan 理事長吉田明子さん、特定非営利活動法人サンカクシャ代表荒井佑介さんを講師にお迎えし、パネルディスカッションでは当事者やご家族、我孫子市や近隣市で子どもの支援をしている方々と語り合いました。実行委員会のメンバーは市内外の支援団体や支援機関で、市民に相談資源を周知することができました。

「生きづらさからの大脱出」Part6を一区切りとして、市民活動ステーションとの協働事業としての子ども応援団事業は終了することになりました。そこで、市役所の関連部署を交えて、「引きこもり支援のこれからを考える会」を開催し、今までの成果と課題を共有し、今後の展開を考える場を設けます。参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。

2022年度第2回子ども応援団事業 「引きこもり支援のこれからを考える会」

日時：2023年2月10日(金) 10:00~12:00 場所：我孫子市役所分館大会議室

対象・定員：子ども支援の関係者及び各団体・組織

主催：市民活動ネットワーク・市民活動ステーション

※なお、9月25日のシンポジウムの内容は、市民活動ステーションのホームページで公開中です。
(担当幹事 柳川眞佐子)



審議会報告

生活支援体制整備事業について

高齢者地域ささえあい会議委員 吉田充

令和4年度第2回我孫子市高齢者地域ささえあい会議(2022年10月24日)の内容をお知らせします。

1. 「高齢者のための日常生活困ったときガイド」については、2年に1度改定を行っており、今年度の改定版発行に向けて準備中。追加事項として、①企業による見守りサービスの一覧。②一般廃棄物(ごみ)収集運搬許可事業者の一覧、その他、家事支援の事業所や訪問理美容、介護タクシー等に新規の事業所の掲載を予定。

2. ICT(情報通信技術)を活用し、活動している団体として、多機能型事業所エール我孫子は関口氏、グループハマダ・ヤマダの山田氏、NPO法人アシラネ

の島田氏から活動の紹介がありました。

グループワークとしては、「ICTの活用について～どんな連携ができる?どんなお手伝いが出る?より身近に利用・活用できることを目指して～」意見交換を行いました。

総括として高齢者がICT化についていけるような普及活動と発信する側は高齢者が検索できるようなSNSの発信を考えていくことが大事であるとの意見が出ました。

我孫子市のLINE公式アカウントが出来たことを合わせて報告します。

『ウイング』の原点を見つめ、継承する想い

NPO 法人ハートネットあびこ 代表 柳瀬玲子

NPO 法人ハートネットあびこが運営しているウイングについて紹介いたします。湖北駅北口にあるウイングは主に心の病の方を対象としている就労継続支援 B 型事業所です。本年 7 年目となり、障がいの有無にかかわらずお互いに支え、協力しあうことを大切に色々なスタッフが働いております。



「まるしえ」は、本年 1 月に 72 回目となりました。

このように地域に開かれた活動の原点は、27 年前ウイングを開設して下さった猫田陽子さんの熱い志にあります。1990 年にイタリアのトリエステへの訪問が原動力になったそうです。精神保健改革によりトリエステでは脱施設化が進み、障がい者が地域で暮らす体制が整っていました。その街で当事者が 3 名でショップを運営していた光景が忘れられない記憶となり、1995 年、私財を投入し、女性のための居場所としてウイングを開設しました。自主運営の後、公的支援を受けることになりましたが、暗中模索の中、地域に開かれた活動を目指し少しずつ支援の輪が広がりました。その先駆的な活動は、福祉事業を進める大きな一歩と言えるでしょう。



ウイングが開設当初から行っていたオリジナルの製品作りは「ウイング工房」に受け継がれ、現在は企業からの要望による受注品に追われています。また、市民の皆様からの寄付により運営しているリサイクルショップ「エコチャイカ」は地域の皆様の交流の場となっております。

ウイングは、「心が休まる居場所」から「就労の場所」へと形態は変わりました。この間、地域の方々のご支援、ご協力が大きな力となっております。

これからも皆様と共に障がいを持っていても年をとっても自分らしく生きられる社会であるために歩み続けます。



地域の活動あれこれ

「夜空を彩るクリスマスイルミネーション」

つくし野睦会

つくし野ストリートに毎年輝くイルミネーション。市民を楽しませてくれる輝きは、昨年も11月末からクリスマスまで冬空を彩りました。

この活動を行っているのはつくし野睦会のメンバー。根戸小学校の保護者OBが主体となる団体です。イルミネーションは1999年にスタート。当初はつくし野団地内の郵便局横で小規模に行っていましたが、2002年には市役所に道路占用許可を得て、中央分離帯(グリーンベルト)に移りました。最初は細々でしたが、家庭で不要になった電飾の寄付などが相次ぎ、さらにある時トラック1台分もの電飾の寄付を頂き現在の規模になりました。

「幼稚園や小学校で仲良くなった子育て仲間からスタートし、その後根戸小学校のおやじの会が中心となりました。卒業後も活動を続けましたが、おやじの会が解散したので有志が“つくし野睦会”という名称で活動を継続することにしました」と語るのは同会の郷原薫さん。



電気代などの経費はつくし野自治会の夏祭りでの飲食の販売を行い、その売り上げを充当。コロナ禍で祭りが中止された近年は、自治会からの声かけで募金活動を実施。無事に費用を集めることが出来ました。

2011年にはLEDとソーラーライトに一新。昨年は社会状況を受けて、点灯時間を2時間短縮したそうです。2019年にはミッキーが盗まれる事件がありましたが、その時に“ミッキーを返して”ではなく“ミッキー帰ってきて!”と呼びかけたあたりにメンバーの人柄を感じます。仲間が集うことから始まったまちづくり。担い手不足などで地域活動が難しい団体も多い中、長く継続し、地域一体となって支え合う姿には学ぶものが多いと感じます。
(担当幹事 小田麻子)

「メンバーも高齢化し、高所の設置などは年々厳しくなっていますが、少し若い仲間も増えたので、出来る限り続けていこうと話しています。毎年自治会の方が電飾設置前に中央分離帯の草刈りや掃除をしてくれます。団地管理組合の許可を得て、電飾を団地倉庫に収納してもらえるのも助かっています。地域の協力があってこそ、これまで続けてこられたと思います」。

地域の活動あれこれ

「あなたも誰かのサンタクロース」

NPO 法人チャリティーサンタ 我孫子支部代表 関口隆彦

NPO 法人チャリティーサンタ我孫子支部は 2019 年に発足。クリスマスイブの 12 月 24 日に我孫子市内の子ども達に、サンタクロースになって思い出を届ける活動をしています。

【チャリティーサンタとは？】

NPO 法人チャリティーサンタは「あなたも誰かのサンタクロース」を合言葉に、2008 年から活動を始めた日本発祥の団体です。6 歳のころにサンタさんが自分に会いに来てくれた思い出を忘れられず「今度は自分が届ける番だ」と思った男性（現代表理事）と、世界一周旅行中に会った途上国の子どものために「日本で彼らのために何かをしたい」と心に決めた女性。そんな 2 人が偶然出会い、お互いの想いを共有する中で、チャリティーサンタの活動が誕生しました。



【NPO 法人チャリティーサンタとして】

ミッション：子どもたちに、愛された記憶を残すこと

ビジョン：子どものために大人が手を取り合う社会

【訪問活動（アクション）を通じて】

- ①子どもには、特別な思い出を届け「自己肯定感」を育む
- ②おとなには、誰かを笑顔にする幸せを通じ「サンタのような大人」を増やす
- ③社会には、イブをきっかけに子どものために手を取り合う機会をつくる



我孫子市内に住む、障がい福祉の仕事に関わっているおじさん 4 人で立ち上げた活動ですが、今年で 4 年目になりました。活動に賛同してくれる方が少しずつ増えて、2022 年のクリスマスイブも、我孫子市に住むたくさん子ども達に思い出を届けることができました。今年は 32 名のメンバーで活動したのですが、そのうち 15 名が我孫子市の職員です。地域の大人たちが、子ども達のために一丸となって活動するのは「楽しい」の一言に尽きます。クリスマスイブは、子ども達の笑顔を見ることができ、幸せな気持ちになって帰ってきます。これからも、我孫子市の子ども達に思い出を届けていきます。

あびこ市民活動ネットワーク役員会報告 (2022年10月~12月度)

■10月度役員会 10月13日(木) Zoom会議の併用

各事業からの報告

- ・市民活動支援指針グループ
我孫子市の公募補助金についての意見交換会のお知らせ。
- ・その他の事業
会報63号の報告から特に進展はない。

■11月度役員会 11月10日(木) Zoom会議の併用

各事業からの報告

- ・市民活動支援指針グループ
我孫子市の公募補助金についての意見交換会の参加希望状況の報告。
- ・地域共生社会グループ
10月24日のささえあい会議の報告
高齢者の孤立問題はスマートフォンのLINEが活用できるようにしていく必要がある。
クリーンセンターとのヒアリング会の報告。
- ・子ども応援団グループ
子ども応援団の目的について話し合いが行われた。
繋がりが大事、当事者に参加してもらう、共感できる社会を目指す。

市民のチカラまつりの中で子ども応援団の企画をやることに対しての市と認識のズレがあった。
企画部門の中に子ども応援団の内容を入れることが出来なかった。
来年は市民のチカラまつりと子ども応援団は別日でやらざるを得ない。

■12月度役員会 12月8日(木) Zoom会議の併用

各事業からの報告

- ・市民活動支援指針グループ
市民協働推進課としては市の公募補助金について新たな団体が活用しやすいように柔軟に対応していきたい考え
- ・地域共生社会グループ
クリーンセンターとのヒアリング会後の経過報告
- ・子ども応援団グループ
今年いっぱいステーションと協働するのは一区切りつけ、来年度からあびこ市民活動ネットワーク独自で始めていく。
- ・チームつながり
来年度どのようにするか決まっていない状況。

(担当幹事 山本聖)

★ 事務局から ★

- ◆会報の「みんなの掲示板」に会員団体のイベントPRや会員募集、他の会員への呼びかけなどの掲載を希望される場合は、事務局(メール acnw.jimukyoku@gmail.com)までご連絡ください。
- ◆アドレスご登録の会員には、この会報電子版や、イベントなどのご案内をメールでもお届けしています。
アドレスの新規登録をご希望の会員も上記にご連絡ください。
- ◆各団体の役員・担当者・連絡先等に変更があった場合は、その都度、あびこ市民活動ステーションにメールまたはFaxにてご連絡するようお願いいたします。(Fax 04 7165 4370)
- ◆次号は4月15日発行予定です。

◆◆あびこ市民活動ネットワークホームページ活用についてのお願い◆◆

あびこ市民活動ネットワークのホームページにご参加ください!

- ① 各団体の活動報告
- ② 新規会員募集
- ③ 活動予定
- ④ 各団体からのお知らせなど

あびこ市民活動ネットワークのホームページを使って

(※市民活動ネットワークHPのQRコード)

- ・会員の活動を活発に情報発信していきます。
- ・毎月初旬に、書式様式をメールにてお送りいたします。
- ・我孫子市の市民活動活性化につなげていきたいので、ご協力お願いいたします。



みんなの掲示板

●我孫子の文化を守る会

『将門記』には、平将門が939（天慶2）年に新皇へ即位した後、坂東諸国の国司を任命し、「王城を下総国の亭南に計画した」ことが記されています。

今回、我孫子の文化を守る会ではそれぞれの地域で平将門を特に研究、調査されている方から、「地元の伝説・伝承をご披露頂き、わが地域が如何に平将門と関係があるか」を主張、PRして頂き、将門についての理解を深めたいとの思いから下記の通り講演会を企画いたしました。

内容 平将門伝説・伝承を探る【市民のチカラまつり企画部門】

- 講演 ①「秩父地方における平将門伝説の成立と展開」 町田広司氏（地元郷土史家）
 ②「取手に残る将門伝説・伝承－桔梗伝説を中心に－」 飯島章氏（取手市埋蔵文化文化センター）
 ③「将門の王城の地を求めて」 戸田七支氏（我孫子の文化を守る会役員）

日時 令和5年2月4日（土）14時～16時半 参加費 無料（先着100名）、申し込み不要

場所 近隣センターふさの風 ※問い合わせ 美崎（TEL080-3410-4426）

●ふれあい塾あびこ 2月3月のセミナー

- ◆新内節の担い手再び 名作「明鳥」創作「和解」（志賀直哉）
2月6日（月）13時～14時30分 アビスタホール 参加費 1,000円
- ◆私の「くちびるに歌を」アルバム ～オペラアリアから子守唄まで～
2月23日（祝）13時～14時30分 アビスタホール 参加費 1,000円
- ◆「絵画を観る喜び」最終回！ 内外四大美術館一その特徴と代表的収蔵品一
3月6日（月）13時～14時30分 アビスタホール 参加費 1,000円
問 080-1364-0371 または fureaijukuabiko@gmail.com



●我孫子の景観を育てる会 第20回市民観桜会

（社）我孫子ゴルフ倶楽部のご厚意で、コース内の見事な桜を楽しめます。
 日時 4月3日（月）10時～16時（入場は15時まで）（雨天中止）
 場所 我孫子ゴルフ倶楽部13番・16番ホールとその周辺
 参加費 100円（小学生以下無料）※事前申込不要
 ※駐車場は五本松運動広場駐車場（我孫子市岡発戸1433-2）
 ※入口は五本松公園向かい側奥の特設入口になります
 問 090-6034-9149（3月1日より）kn720@jcom.home.ne.jp



あびこ市民活動ステーションからのお知らせ

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

1月から3月までの事業をご案内します。利用者懇談会は市民活動ステーションの20年を振り返る機会にしたいと、協働推進課から設置当時のことをお話しいただきますのでぜひご参加ください。

内 容	日 時	場 所
パソコンの困り事何でも相談 （80歳以上、外国人、障害のある方）	1/12（木）、2/9（木）、3/9（木） 9時～17時（1人60分）	市民活動ステーション
シニアほっとカフェ 1月：市民後見人 2月：防災 3月：ポリ袋クッキング	1/25（水）、2/22（水）、3/29（水） 13時30分～15時30分	1・2月：市民活動ステーション 3月：我孫子南近隣センター調理室
利用者懇談会&交流会 市民活動ステーションの20年を振り返る	2/13（月）11時～13時	市民活動ステーション

問・申込先：TEL 7165-4370 メール abikosks@themis.ocn.ne.jp